

News Release

日刊工業新聞に JFE グループの J&T 環境との業務提携について掲載されました

2023年2月21日、日刊工業新聞に J&T 環境株式会社との太陽光パネルリサイクルへの取り組みについて掲載されました。(2023年2月17日付業務提携契約締結)

当社グループは、太陽光発電設備の設計、施工から O&M (オペレーション&メンテナンス)、さらにパネルのリサイクルまでワンストップでサービスを提供し、循環型社会と脱炭素社会の実現に貢献してまいります。

J & T環境と J E S C Oホールディングス

太陽光発電設備の設計、施工から使用済みパネルのリサイクルまで一気通貫で担う新たなビジネスモデルが立ち上がる。電気設備の設計施工の J E S C Oホールディングスと、J F Eエンジニアリングの子会社で廃棄物処理事業を手がける J & T環境 (横浜市鶴見区) の業務提携によって実現したもので、再生可能エネルギーの利用ニーズと、製品寿命を終えたパネルの適正処理の課題の双方に応える。



JESCOグループが電気関連の設計・施工を手がけた茨城県日立市十王町のメガソーラー

太陽光発電で協業

JESCOホールディングスは情報通信関連設備の設計、施工が主力。太陽光発電設備の運用保守も担い、累計の発電容量は2023年中に40万kWを超えを見通し。一方、J&T環境は22年末、群馬県伊勢崎市に太陽光パネルのリサイクル工場を稼働するなど処理技術を持つ。互いの経営資源を担い合わせることで発電施設の新設にとどまらず、更新や故障などに伴う使用済みパネルの処理需要にも

JESCOはパネルの製品寿命や更新を見据えた施設提案につなげることで、2年後の累計発電容量は現在の1.5倍に超える。太陽光パネルの寿命は20年から30年程度とされる。12年に始まった再生エネ大規模導入時代の大きな課題となつてい

施工からパネル処理 一括受注の体制構築

入されたパネル廃棄は30年代に急増するとみられており処理問題が浮上している。経済産業省など関係省庁が適正な管理に関する検討会を示した推計では35年から37年には年間約17万から28万トンの排出されると推計。適切な管理でパネルを延命しつつ、リサイクルや再利用の枠組みをどう整えるかは、再生